

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自主」「誠実」「創造」の校訓を旨とし、これからの社会に貢献できる深い教養と豊かな人間性を備え、主体的に物事に挑戦する姿勢を持ち続ける知・徳・体のバランスの取れた人間力のある人材を育成する。

【生徒に育みたい力】

・志と夢を持ち、将来の自分を想像する力 ・社会や自身の課題に真摯に向き合い、主体性を持って考える力 ・努力を継続し、挑戦し続ける意欲と行動力 ・人権を尊重し、多様性を理解して繋がる力

2 中期的目標

1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成

(1) 知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力と主体性・多様性・協働性を含んだ「確かな学力」の定着をめざす。

ア 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を展開する。

※ 学校教育自己診断の「授業評価」に関する項目において、令和4年度まで70%以上の肯定率を維持する。

(「授業のわかりやすさ」H29:69.4%, H30:72.8%, R01:66.1%)

イ ICT機器の授業における効果的な活用を促進する。

※ 各講座でのICT機器等の活用を促進し、令和4年度まで実施授業の比率を上昇させ続ける。(H29:50%, H30:71.4%, R01:3月末に判明)

ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルでの英語4技能習得をめざす。(スピーキング指導の充実)

※ 第1学年及び第2学年において外部試験等を利用した4技能習得及びその状況を客観的に把握 実力判定テストにおいてもリスニングテストなどを導入 英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇。(当該科目授業アンケート H29:3.2, H30:3.2, R01:3.38)

エ 津田高版の探求活動(探求の時間)を確立し充実する。

(2) 課外学習など自学自習を促進し、校内外での学習習慣の確立をめざす。

ア 放課後学習や週末課題を実施し、知識・技能の一層の定着を図る。

※ 2年生での家庭学習の平均時間を、令和4年度までに1時間以上とする。(H29:0.38時間, H30:0.45時間, R01:0.36時間)

イ 各種検定試験の受験を促進し、資格取得による学習への動機づけを図る。

※ 漢字・数学・情報・英語の資格検定の校内実施と受験生徒の増加に努める。

(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現のための支援を充実する。

ア 生徒が目標を持ち進学や就職に取り組めるよう、将来に向けてのキャリア展望を促進する。

※ 学校教育自己診断の「進路指導」に関する項目において、令和4年度まで85%以上の肯定率を維持する。(H29:81%, H30:86.3%, R01:85.6%)

イ 最新の情報収集に基づく進路種別の生徒・保護者向け説明会の充実を図る。

※ 各学年で生徒・保護者対象進路説明会を実施する。

ウ 進路指導セクションと担任団の連携を強化し、サポート体制を確立する。

2 力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成

(1) 生徒理解に基づく指導の促進と安全安心な学校生活を支援する体制を確立する。

ア 生徒理解の指導により、生徒の自律性と自己肯定感の向上を図る。

※年間遅刻者数800件以下を維持する。

イ 悩みや不安のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、スクールカウンセラーなどの専門家や関係機関と連携して教育相談支援体制を充実する。

※ 学校教育自己診断(生徒)の教育相談に関する項目の肯定率65%以上を維持する。(H29:61.1%, H30:63.5%, R01:65.2%)

ウ 学校のルールや授業規律の徹底を図り、規律ある安全安心な教育環境を確保する。

※ 学校教育自己診断(生徒)での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率95%程度を維持する。(H29:93.9%, H30:96.4%, R01:94.5%)

(2) 伝統ある学校行事(生徒会活動)や活発な部活動により主体性・協調性を育成する。

ア 生徒主体で企画・運営する学校行事を継続して促進する。

イ 部活動運営の主体性を育むためキャプテン・マネージャー会議などの充実を図る。

※1年生の部活動入部率を令和4年までに80%を実現する。(H29:70%, H30:69.5%, R01:78%)

※行事や部活動に対する肯定率80%を維持する。(H29:84.2%, H30:82.1%, R01:80.8%)

(3) コミュニケーション能力の向上を図り、他者を尊重する心を育成する。

ア 「あいさつが飛び交う津田高」の伝統を継承し、あいさつ運動を促進する。

※「挨拶をするように心がけている」の肯定率を90%以上にする。(H29:85.1%, H30:90.8%, R01:89.2%)

イ 国際交流活動(海外からの学校訪問受入れと希望者による短期留学派遣)を実施し、国際感覚を育成する。

※ 外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期海外派遣を実施する。

3 学校力、教員力の向上

(1) 継続的な授業改善への取組みを促進し教育力の向上を図る。

ア 主体的・対話的で深い学びの授業を促進する。

※「主体的・対話的な授業実施に取り組んでいる」の肯定率を令和4年までに50%以上を実現する。(H30:40%, R01:40.9%)

(2) 高大接続改革に対する的確な対応

ア 大学入試改革などの変化に対して組織的に対応し、生徒、保護者への適切な進路指導に繋げる。

(3) 津田高の魅力発信の強化と地域連携の促進

ア 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」をアピールする。

イ 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識する。

ウ HPなど多様な情報発信ツールを活用した広報活動を強化する。

(4) 働き方改革の取組み

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分] | | | | 学校運営協議会からの意見 | |
|----------------------------|--|----|-----|--------------|--|
| 主な項目における結果 (%) | | | | | |
| 内 容 | | 生徒 | 保護者 | 教員 | |
| 学校への満足度(学校は楽しい、通わせてよかった。) | | | | | |
| 授業への評価(わかりやすい、学力がのばされている) | | | | | |
| 進路指導に対する評価 | | | | | |
| 生徒指導に対する評価 | | | | | |
| 学校行事、部活動に対する評価 | | | | | |
| 学習環境が整っている。 | | | | | |
| 【分析】 | | | | | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------------------------|-------------------------------|---|--|------|
| 1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成 | (1) 思考力・判断力・表現力を含んだ「確かな学力」の定着 | (1) | (1) | |
| | ア 主体的、対話的で深い学びを実現する授業の展開 | ア・「主体的な学びのある授業」のための授業改善に向けた研修などへの参加と授業見学週間の実施 ・学力生活実態調査の活用による基礎力の育成 | ア・自己診断「授業評価」の肯定率 70%以上 (R01:「授業のわかりやすさ」: 66.1%) ・主体的・対話的な学びのある授業の実施率の増加 (R01:40.9%) | |
| | イ ICT 機器の効果的な活用 | イ・前年度新設のルーター等の ICT 環境の活用促進 | イ・授業での ICT 機器の活用指導力の向上 (R01:75.5%) | |
| | ウ 英語専門コースを中心により高いレベルでの 4 技能習得 | ウ・英語専門コース及び英語授業一般において、4 技能伸長のための授業の改革を実施。 ・4 技能をバランスよく指導する。特にスピーキング力の養成に努める。 | ウ・授業におけるスピーキングの指導割合の増加。 ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.4 以上を維持。(R01:3.38) ・スピーキングコンテスト等複数学年で実施 (年 1 回) | |
| | エ 津田高版探究活動の確立 | エ・新たに 2 年生で実施するテーマに基づく探究活動の促進 | エ・自己診断による「探究学習」の肯定率 70%以上 (R01:未実施) | |
| | (2) 校内外での学習習慣の確立 | (2) | (2) | |
| | ア 放課後学習・週末課題の実施 | ア・毎日放課後 10 分間の基礎学習を実施し、毎週末には英語・数学・国語の課題を課し家庭学習を促進する。 | ア・週末課題等の提出率 9 割以上 (R01:10 割達成) | |
| | イ 各種検定試験の受験促進 | イ・英語検定、漢字検定、数学検定等の対策指導を行い意識を高め、受験を促進する。 | イ・年間の資格試験等の校内実施 | |
| | (3) キャリア教育の充実と希望の進路実現 | (3) | (3) | |
| | ア 将来に向けてのキャリア展望 | ア・新たに導入する「キャリアパスポート」を活用し生徒の進路実現に向けた取組みを促進する。 | ア・自己診断「進路指導」の肯定率 85%以上 (R01:85.6%) | |
| イ 進路情報の収集と保護者説明会の実施 | イ・多様な進路情報に対応した、生徒・保護者説明会の開催 | イ・進路に関する説明会を 1 年生 1 回、2 年生 3 回、3 年生 2 回行う。 | | |

| | | | | |
|------------------------------------|---|---|--|--|
| <p>2 力強く社会を生きるための豊かな人間力の育成</p> | <p>(1) 生徒理解に基づく指導と安全安心な学校生活を支援 ア 生徒の自律性と自己肯定感の向上</p> <p>イ 教育相談支援体制の強化</p> <p>ウ 規律ある安全安心な教育環境の確保</p> <p>(2) 学校行事や部活動による主体性、協調性の育成 ア 生徒主体で企画運営する学校行事の促進</p> <p>イ 部活動運営における主体性の育成</p> <p>(3) コミュニケーション能力の向上と他者を尊重する心の育成 ア あいさつ運動の促進</p> <p>イ 国際交流活動の推進</p> | <p>(1)</p> <p>ア・生徒理解に基づく指導により生徒の自律的な学校生活を確立する。</p> <p>イ・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて中学校・福祉・司法・行政などの関係機関の協力を得る。 教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。 生徒にとって相談しやすい環境を創造する <p>ウ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。 <p>(2)</p> <p>ア・生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む。</p> <p>イ・部活動での生徒の主体的活動を促進するためのキャプテン・マネージャー会議を月1回程度開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。 <p>(3)</p> <p>ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。</p> <p>イ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外派遣事業の継続実施 | <p>(1)</p> <p>ア・年間遅刻者数を 800 件未満にする。 (R01:786 件)</p> <p>イ・教育相談・支援教育に関するケース検討 (40 回以上) (R01:46 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関連携を必要に応じた回数確実にを行う (R01:延べ 12 回) 教育相談・支援教育に関する研修を 1 回実施 (R01:1 回) 自己診断での「教育相談」の肯定率の向上 (R01:65.2%) <p>ウ・自己診断(生徒)の「学習環境」への肯定率の向上 (R01:65.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒)での「規範意識」の肯定率 95%以上 (R01:94.5%) <p>(2)</p> <p>ア・自己診断(生徒)の学校行事及び部活動への満足度 80%を維持する(R01:80.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事ごとに HP に情報を掲載 <p>イ・キャプテン・マネージャー会議の招集 (R01:12 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 年生の入部率を前年度より上昇させる。 (R01:78%) 「部活動体験会」などを 1, 2 学期で 5 回以上実施(R01:13 回) 部活動交流に参加する中学生 400 名以上 (R01:400 名) <p>(3)</p> <p>ア・自己診断の「あいさつをしている」90%以上 (R01:89.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 早朝のあいさつ運動の実施(年 30 日以上) (R01:40 日) <p>イ・教育旅行 1 校受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外派遣 10 名以上参加 (R01:12 名) | |
|------------------------------------|---|---|--|--|

| | | | | |
|---------------------------------------|---|---|--|--|
| <p>3 学校力・教員力の向上と働き方改革に向けた取り組み</p> | <p>(1) 授業改善の促進 ア主体的、対話的で深い学びを実践する授業の実現</p> <p>(2) 高大接続改革への対応 ア 大学入試改革等の変化への対応</p> <p>(3) 津田高の魅力発信と地域連携 ア学校説明会等の充実</p> <p>イ地域イベントへの参加</p> <p>ウ多様な情報発信ツールの活用</p> <p>(4) 働き方改革への取り組み</p> | <p>(1) ア・授業見学週間の実施により主体的、対話的で深い学びを実践する授業を促進する。</p> <p>・授業変革のためのミドルリーダー育成のため講習会を校内にて実施</p> <p>(2) ア・高大接続に関する情報を適時収集し的確に対応する。</p> <p>(3) ア・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」「伸ばす津田高」をアピールする。</p> <p>イ・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。</p> <p>ウ・学校 HP の充実に取り組む。</p> <p>(4) ア・全校一斉退庁日・部活動休養日の定時退庁を推進し、教職員の業務負担軽減を図る。</p> | <p>(1) ア・年間2回の授業見学週間を実施する。</p> <p>・主体的、対話的な授業を行っている率の増加 (R01:40.9%)</p> <p>・講習会は年3回以上実施 (R01:3回)</p> <p>(2) ア・職員会議での情報の共有と生徒、保護者への的確な情報伝達と対応を行う。</p> <p>(3) ア・中学校訪問 60校 (80回) (R01:60校 79回)</p> <p>・中学校向け広報紙の発行と配布 (6回以上) (R01:7回)</p> <p>イ・地域の行事等への参加 (6回以上) (R01:9回)</p> <p>ウ・学校 HP の閲覧数の増加を図る。</p> <p>(4) ア・全校一斉退庁日の退庁率について年間平均で前年度を上回る。(R01:87%)</p> | |
|---------------------------------------|---|---|--|--|